

## 「いわて青少年育成プラン(2020～2024)」に係る指標の達成度(令和4年度実績)と今後の取組について

## (1) 総括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、青少年の地域での活動などに係る指標などでは、目標とした水準への回復に至らなかったものの、オンラインを活用した人材育成や情報発信など、コロナ禍に対応した取組を行っている。

4つの取組方針ごとの主な取組状況は下記のとおり。

「1 個性や主体性を発揮して自立した活動ができる環境づくり」では、感染症対策を講じて行った食育推進キャラバン、ものづくり分野等における人材育成や若者の就労支援等の取組において、目標を上回る実績となった。

「2 愛着が持てる地域づくり」では、子育てサポートセンターを活用した子育てへの支援やコミュニティスクールの導入促進など地域の教育力向上を図る取組等において、目標を上回る実績となった。

「3 青少年を事件・事故から守る環境づくり」では、「少年人口1,000人あたりに占める刑法犯少年の数」など、青少年による犯罪件数が低減した一方、「ルールを守って情報機器(スマートフォン等)を利用することが大切だと思ふ児童生徒の割合」は伸び悩んだ。

「4 若者が活躍できる環境づくり」では、いわて若者交流ポータルサイトやいわてネクストジェネレーションフォーラムなど、新型コロナの状況も踏まえた若者の活動への支援を行い、サイトアクセス数やイベント参加者数において、目標を達成した。

## (2)「いわて青少年育成プラン(2020～2024)」に係る指標の達成度(令和4年度実績)

## [達成度の状況]

A(達成度100%以上)	31項目(34.8%)
B(達成度80以上100%未満)	19項目(21.4%)
C(達成度60以上80%未満)	13項目(14.6%)
D(達成度60%未満)	25項目(29.2%)
測定不能	1項目(1.1%)
合計	89項目

## [達成率の計算式]

## ① 増加を目指す指標:

$$(\text{年度実績値} - \text{基準値}) / (\text{年度目標値} - \text{基準値}) \times 100$$

## ② 低減を目指す指標:

$$(\text{基準値} - \text{年度実績値}) / (\text{基準値} - \text{年度目標値}) \times 100$$

## ③ 単年度当たりの達成を目指す指標

$$(\text{年度実績値}) / (\text{年度目標値}) \times 100$$

## 【主要指標】

重点目標	中項目	小項目	指標名	単位	目標値				実績	判定	R4年度実績に対する評価と今後の対応	担当課		
					青少年プラン基準値(2018)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2022(R4)					
1 個性や主体性を発揮して自立した活動ができる環境づくり	(1) 豊かな人間性と社会性「健やかな体の育成	ア 親子の触れ合いの充実	自己肯定感を持つ児童生徒の割合								コロナ禍により体験活動等の機会が制約を受けたことや、多様性を認め合う環境づくりが十分に進まなかったことから、今後は自分の目標に向けてやり遂げる機会を充実させ多様性を認め合う機会を重視した道徳教育及び人権教育の充実に取り組む。	学校教育室		
			(小学生)	%	82.3	84.0	85.0	78.0	77.3	D				
			(中学生)	%	76.9	79.0	80.0	78.5	78.1	D				
		イ 道徳教育の充実	自他の良さを認め合う学級であると感じている児童生徒の割合									コロナ禍により学校活動が制限され、他者の価値観を認め尊重し合う人間関係を構築する機会が十分でなかったことから、今後は、多様な価値観を認め合う道徳性の涵養に向けて道徳教育のに引き続き取り組む。	学校教育室	
			(小学生)	%	85.0	91.0	94.0	-	87.0	D				
			(中学生)	%	88.0	92.0	93.0	-	88.0	D				
		ウ 環境学習の充実	環境学習交流センター利用者数	人	30,511	31,000	42,000	41,000	33,748	D	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い利用制限を行ったこと等により、来館者数や訪問学習受講者数が回復しなかったもの。今後はこれまでの環境学習交流センターと連携した地域で活躍する環境人材の育成、環境学習の支援に加え、センターによる情報発信の強化や県民への提供プログラムの改善を推進する。	環境生活企画室		
			エ 食育の推進	食育普及キャラバン参加者数【累計】	人	275	564	824	-	1,042	A		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、訪問先の意向を踏まえながら令和4年度は直接訪問して行う形と食育の普及啓発物品を配付する形に分けて食育キャラバンを実施した。令和5年度も食育の普及啓発に向けて引き続きキャラバンを実施する。	県民くらしの安全課
				オ 体育・スポーツの充実	運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 ※維持する目標	%	89.0	89.0	89.0	89.0	88.0		B	
		「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合			%								指標は変更しますが、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の形成に向けた一體的な取組を推進する。	
			(小学生)			88.1	90.0	91.0	-	85.4	D			
			(中学生)		86.2	88.0	89.0	-	84.4	D				

	キ 読書活動の推進	読書がとても楽しいと感じる児童生徒の割合								関係者の研修会開催、中学校1年次へのブックリスト配布など、読書環境の整備や読書意欲の向上に努めたが、スマートフォン等の利用時間の増加、読書以外の活動の選択肢の増加等による読書に親しむ機会の減少により低調となったものの、引き続き、情報発信、推進体制の整備・充実に取り組んでいく。	生涯学習文化財課
		(小学生)	%	45.0	48.0	50.0	-	44.0	D		
		(中学生)	%	42.0	48.0	51.0	-	37.0	D		
		(高校生)	%	38.0	48.0	52.0	-	32.0	D		
	ク 文化芸術活動の推進	子どものための芸術家派遣事業公演数【累計】	件	89	198	266	62	248	B	新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止となった公演があったこと等から目標値を下回ったが、次代を担う子どもたちに優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、引き続き取り組んでいく。	文化振興課
(2) 生涯を通じて学び続ける力の育成	ア 総合的な生涯学習の推進	生涯学習情報提供システム（ホームページ）利用件数 ※維持する目標	件	76,043	120,000	120,000	-	68,489	D	ホームページのリニューアル作業に伴い、閲覧できないページがあったこともあり、利用件数が減ったものと考えられる。生涯学習の推進を支える指導者・ボランティアの育成に係る方たちが利用しやすいホームページ運営に努める。	生涯学習文化財課
	ウ 個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進	地域や産業界等と連携し魅力ある学校づくりに取り組んでいる高校の割合 ※維持する目標	%	86	100	100	-	99	B	取組は概ね順調に推移しており、引き続き魅力ある学校づくりに取り組む。	学校教育室
		私立高等学校における特色ある教育活動の実施率	%		60.7	62.4	65.0	64.1	A	教育ニーズが多様化する中、建学の精神などに基づいた特色ある教育活動を実施している私立学校に対する期待が高まっている。引き続き、各私立学校における特色ある教育活動の充実を図り、私立学校に通う生徒が希望する進路を選択し、自己実現の意欲を高めていくため、私立学校運営費補助等による支援に取り組む。	学事振興課
		自分の住む地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童生徒の割合	%							コロナ禍により地域での体験的な学習の取組に制約があったことから学習内容と実社会とのつながりを感じる機会が減少したが、今後も復興・発展を支える人材の育成に取り組む。	学校教育室
		(小学生)		53.6	58.0	60.0	-	58.2	C		
		(中学生)		47.5	56.0	59.0	-	49.6	D		
		(高校生)		53.3	61.0	64.0	-	58.2	D		
	エ 魅力ある社会教育の推進	社会教育指導員・地域づくり関係者の資質向上を図る研修会の受講者数	人	73	113	123	130	155	A	目標値は上回ったが、対象とする8つの研修会の中には、参加者が減少しているものもあるため、オンデマンド研修等、運営の工夫を始め、研修内容を充実させるように務め、多くの関係者の資質向上を図っていく。	生涯学習文化財課
	(3) 若者の職業的自立、就労等支援	ア 職業能力・意欲の習得	%	55	61	65	50	49	D	コロナ禍により体験的な学習を通じてキャリアデザインを行う機会が減少したが、今後もキャリア教育の充実に取り組む。	学校教育室
		地域ものづくりネットワーク等と連携した工場見学への参加高校生数	人	1,659	1,900	1,900	-	2,643	A	目標値は達成したものの、ものづくりへの興味喚起の取組が必ずしも進路に結びついていないため、地域ものづくりネットワーク等を中心とした各段階に応じた人材育成を推進するとともに、小学校から高等教育機関まで連続性を持ったキャリア教育の推進に取り組む。	ものづくり自動車産業室
		3次元設計開発技術を習得した高校生数【累計】	人	55	210	290	-	335	A	ものづくり産業を取り巻く環境変化や企業のニーズを踏まえ、引き続き高等教育機関等と連携し高度技能者・技術者の育成に取り組む。	ものづくり自動車産業室
		高校生の県内企業の認知割合	%	-	91.8	100.0	-	68.8	C	進学を希望する高校生の認知度向上には至らなかったが、今後も子どもたち自らが、将来のライフデザインを考えるためのキャリア教育の充実に取り組む。	定住推進・雇用労働室
		イ 就労等支援の充実	%	-	36.4	35.6	-	35.3	A	高卒者3年以内の離職率の低下に向け、就業支援員による企業訪問等により、早期離職防止に取り組む。	定住推進・雇用労働室

		高卒者の正社員求人割合	%	95.9	96.0	96.3	-	97.3	A	目標値は上回ったが、引続き、高卒者の正社員割合を向上させ、安定的な雇用を目指す。	定住推進・雇用労働室
		正社員就職・正社員転換数【累計】	人	11,767	39,600	52,800	12,000	38,322	C	正社員就職・正社員転換数を増やすため、若手労働局や市町村等と連携し、企業や経済団体等に対する要請活動等を行い、安定的な雇用の確保に取り組む。	定住推進・雇用労働室
(4) 社会参画の機会の拡大	ア ボランティア活動、地域活動等の促進	青少年ボランティア活動者数【累計】	人	523	1,230	1,630	500	2,244	A	感染症の状況を踏まえながら事業を展開し、順調に推移している。ボランティアの機会を分散したり活動内容の工夫をするなどの対策を講じていく。	若者女性協働推進室
		「わたしの主張」応募総数【累計】	人	3,987	12,600	16,800	4,000	16,652	B	生徒数の減少の影響もあるが、引き続き教育委員会とも連携し、取組の周知・拡大を図っていく。	若者女性協働推進室
	ウ 男女共同参画の普及、啓発	デートDV出前講座受講者数【累計】	人	2,634	7,400	11,800	1,800	11,746	B	感染症対策として少人数の講座を重ねたため、受講者数は目標値には至らなかった。講師派遣へのニーズは高いことから、引き続き、カリキュラムの見直し等を行いながら受講者の確保に取り組む。	若者女性協働推進室
		学校における男女混合名簿使用率	%							取組は概ね順調に推移しており、引き続き、未使用の学校に対して働きかける。	学校教育室
		(小学生)		39.0	85.0	100.0	-	100.0	A		
		(中学生)		21.0	75.0	100.0	-	98.0	B		
	(高校生)	81.0		100.0	100.0	-	100.0	A			
	エ 消費者教育等の充実	社会の動きや出来事に関するニュースに関心がある児童生徒の割合	%							生徒の社会情勢等への関心を十分に喚起するまでには至らなかったことから、関係機関と連携した探究的な学習を進めるとともに、主権者教育及び消費者教育の充実に取り組む。	学校教育室
		(小学生)	82.0	85.0	86.0	-	90.0	A			
		(中学生)	75.0	84.0	87.0	-	90.0	A			
		(高校生)	72.0	85.0	90.0	-	77.0	D			
(5) 困難を抱える子供・若者とその家族への支援	ア ニートやひきこもりなど困難を抱える子供・若者への対応	若年無業者等「交流・活動支援（ステップアップ）参加者数【累計】	人	625	1,740	2,320	580	2,053	B	新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止があり、参加者が低調であった。引き続きニーズに適した内容で開催をしていく。	若者女性協働推進室
	イ 学校不適応への対応	いじめはいけなと思う児童生徒の割合	%							いじめの定義や各校の学校いじめ基本方針の児童生徒への周知と理解が深まっていないことから、引き続き、道徳教育や人権教育の充実に取り組む。	学校教育室
		(小学生)	89.1	97.2	100.0	100	85.6	D			
		(中学生)	84.6	96.1	100.0	100	86.2	D			
		学校が楽しいと思う（学校に満足している）児童生徒の割合	%							コロナ禍により、学校行事の縮小などにより教育活動に制限が生じたが、児童生徒の主体的な取組事例等を収集し、その成果を発信・周知する等、魅力ある学校づくりに取り組む。	学校教育室
		(小学生)	88	90	91	88	85	D			
		(中学生)	88	90	91	85	85	D			
	(高校生)	87	89	90	90	89	C				
	ウ 障がいのある青少年への対応	特別支援教育サポーター登録者数	人	273	350	380	390	364	B	取組は概ね順調に推移しており、引き続き登録者の確保に取り組む。	学校教育室
	オ 社会復帰への支援と温かく見守る環境づくり	犯罪被害者等に係る理解促進のための講演会等の参加者数【累計】	人	7,534	10,040	14,340	3,000	14,327	B	令和4年度の講演会等の参加者数は令和3年度から減少するなど、犯罪被害者等に対する関心が低下している一方で、犯罪被害者等は二次的被害を始めたとしたさまざまな問題に直面していることから、犯罪被害者等を支える社会づくりを推進するため、「いのちの尊さ、大切さ教室」の開催について、各種媒体を活用した広報活動を推進する。	警察、消防安全課
		はまなすサポートホームページアクセス数 ※維持する目標	回	-	2,600	2,600	-	2,997	A	性犯罪・性暴力被害者となりやすい若年層を中心に広報啓発活動を行った結果、「はまなすサポート」ホームページアクセス数は目標を達成した。今後も、性犯罪・性暴力被害者への支援を促進するため、リーフレット等の配付やSNSを通じた広報啓発活動を行い、制度の周知を図っていく。	消防安全課

2 愛着が持てる地域づくり	(1) 地域ぐるみの子育て支援	ア 子育て支援ネットワークづくり	すこやかメールマガジン登録人数	人	1,141	4,000	5,000	4,500	4,062	C	チラシやSNS、子育てに関する研修会等で広く周知をした。目標を達成させるために、今後は、発信する内容の充実、広報の範囲を広げる、二次元コードを利用した登録などにより積極的な周知に努めながら、登録者の増加を図りたい。	生涯学習文化財課
			放課後児童クラブ設置数	箇所	385	437	456	-	430	C	共働き家庭等の子どもが増大する中、安心して子どもを産み育てられるよう、子どもの受入先である放課後児童クラブを確保することが必要であることから、地域の利用ニーズ等に基づいて市町村が計画的に実施する施設整備を引き続き支援する。	子ども子育て支援室
		イ 親育ちの支援	子育てサポートセンターにおける子育て支援研修等参加者数【累計】	人	372	576	705	140	970	A	開催時期の調整やオンラインでの開催も含め受講機会の確保に取り組んだ。引き続き、対象者が研修の機会をより多く持てるように環境を整備していく。	子ども子育て支援室
			子育てサポーターを対象とした家庭教育支援に関する研修会参加者数	人	482	575	600	615	892	A	子育てへの高い関心の表れだと思われるので、引き続き、研修の内容を充実させ、家庭教育支援を図っていく。	生涯学習文化財課
			子ども・若者支援セミナー受講者数【累計】	人	182	730	970	240	835	B	新型コロナウイルス対策の観点から受講者制限・オンライン配信を行った。今後も、オンラインを併用しながら支援者の知識習得を図っていく。	若者女性協働推進室
		ウ 地域の教育力の充実	コミュニティスクール設置市町村数	市町村	6	25	33	-	33	A	「地域とともにある学校づくり」や「学校と核とした地域づくり」を実現するため、公立学校へのコミュニティ・スクールの導入促進を図っていく。	生涯学習文化財課
			教育振興運動として計画的に取組まれている地域活動件数	件	②3,411	3,650	3,900	-	3,852	B	昨年度(3,429件)から423件増加し、コロナ禍前の水準に戻りつつある。活動の活性化を図るため、引き続き、全県運動である教育振興運動の周知・啓発を行うとともに、各市町村・各実践地区と連携した取組を進めていく。	生涯学習文化財課
			社会教育指導員・地域づくり関係者の資質向上を図る研修会の受講者数	人	73	113	123	130	155	A	目標値は上回ったが、対象とする8つの研修会の中には、参加者が減少しているものもあるため、オンデマンド研修等、運営の工夫を始め、研修内容を充実させるように努め、多くの関係者の資質向上を図っていく。	生涯学習文化財課
			地域協働の仕組みにより保護者や地域住民が学校の教育活動にボランティアとして参加している学校の割合	%							各学校において、保護者や地域住民が様々な教育活動(登下校の見守り、環境整備等)にボランティアとして参加し、割合は目標値を上回った。引き続き、学校や地域の関係者を対象に研修会を開催するなどして学校・家庭・地域の連携・協働について意識啓発を図り、保護者や地域住民の教育活動等への参加を促進していく。	生涯学習文化財課
			(小学生)		-	83.0	84.0	-	100.0	A		
			(中学生)		-	65.6	67.0	-	97.3	A		
	(2) 「ふるさと」を知り「地域」を体験する活動の支援	ア まつりや地域活動への参加促進	自分の住んでいる地域が好きだと思っている児童生徒の割合	%							コロナ禍により地域での体験的な取組による地域の良さを認識する機会が減少したが、今後も地域の良さを認識に向けて取り組む。	学校教育室
			(小学生)		66.0	72.0	74.0	72	71.0	C		
			(中学生)		52.0	58.0	60.0	55	54.0	D		
			(高校生)		51.0	58.0	62.0	47	43.0	D		
		ウ 豊かな体験学習の充実	県立社会教育施設で「岩手」をテーマとした講座の受講者数	人	623	650	1,020	1,050	1,046	A	県立社会教育施設で、「岩手」をテーマとした講座の参加者を多く得たが、引き続き豊かな自然、文化、歴史等の資源をテーマとした公開講座を開催するなど、岩手ならではの学習機会の提供に取り組んでいく。	生涯学習文化財課
			放課後子供教室において指導者を配置して「体験活動」を実施している教室の割合	%	25.7	80.0	100.0	75.0	73.1	C	指導できる地域人材の不足等により、実績は目標値を下回った。引き続き実施市町村に対する支援に取り組み、指導者の配置拡充を図っていく。	生涯学習文化財課
		(3) 「世代間・地域間」等の多様な交流の促進	海外派遣人数及び相互交流受入人数【累計】	人	33	42	86	-	42	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度は海外への派遣及び受入ができなかった。関係機関と調整の上、引き続き海外との交流機会の創出に取り組んでいく。	国際室

			いわてグローバル人材育成推進協議会の支援制度を利用して海外留学した学生数【累計】	人	5	8	13	5	11	C	グローバル人材育成のため、引き続き県内学生の留学支援に取り組んでいく。	国際室
	(4)ワークライフバランスの推進	ア ワークライフバランスの推進	いわて子育てにやさしい企業等認証の認証数	事業者	113	265	315	245	375	A	企業訪問等により登録企業の拡大に取り組んだ。引き続き、企業訪問のほか、HPや県広報などによる情報発信により、認証企業数の拡大を図る。	子ども子育て支援室
			いわて働き方改革推進運動参加事業者数	事業者	217	800	1,000	945	822	C	目標には届かなかったものの運動参加事業所は着実に増加している。県内企業における働き方改革の推進に向けて継続して、意識啓発や優良事例の普及等に取り組んでいく。	定住推進・雇用労働室
			「いわて子育て応援の店」協賛店舗数	店舗	1,933	2,209	2,300	2,500	2,392	A	企業への働きかけにより、協賛店舗数の拡大に取り組んだ。引き続き、協賛店登録が子育て世帯へのアピールポイントになることを積極的に周知し、登録を促進する。	子ども子育て支援室
	(5)「青少年団体活動」の支援	イ 青少年活動交流センターの充実	青少年活動交流センター利用者数	人	23,150	12,200	12,200	12,500	19,800	A	新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、各事業を開催した。今後も、配信や分散開催などの視点を持ちながら利用者確保を図る。	若者女性協働推進室
3 青少年を事件・事故から守る環境づくり	(1)「青少年の居場所づくり」の推進	ア 相談体制の整備	悩み相談ができる学校以外の相談窓口を知っている児童生徒の割合	%							取組は概ね順調に推移しており、引き続き、年間を通じ、機会を捉えてSOSの出し方・受け止め方の指導とともに相談窓口を周知していく。	学校教育室
			(小学生)		75	100	100	-	90	C		
			(中学生)		48	100	100	-	97	B		
			(高校生)		81	100	100	-	91	D		
		イ 自由に集える居場所づくり	子ども食堂など子供の居場所づくりに取り組む市町村数	市町村	11	29	33	26	27	C	立ち上げ等の支援に取り組んだ結果、新たに3市町において設置が進み、県内の子どもの居場所数も昨年度から24箇所増えて100箇所になったが、小規模町村においては、子ども食堂の立ち上げの検討に時間を要している等により、全市町村での実施には至らなかった。好事例の展開などにより、小規模町村での立ち上げを進め、子どもの居場所づくりに取り組む。	子ども子育て支援室
	(2)「安全・安心」な地域社会づくりの推進	イ 見守り活動の推進	青少年を非行・被害から守る県民大会参加者数【累計】	人	499	1,520	2,070	2,469	1,919	B	会場参加には制限を設けたものの、オンラインや希望者への資料送付により県民意識の醸成に取り組んだ。	若者女性協働推進室
			地域住民による見守り活動が行われている学校の割合	%	-	84.0	85.0	85.0	94.9	A	小中学校連携による見守り活動や児童生徒の通学時間に合わせて買い物やペットの散歩等を行って行う「ながら見守り」の促進により目標を上回る成果となった。今後は、課題である登下校時に見守り活動を行うことができる人材の確保に向けて活動事例の照会や情報交換、周知等により見守り活動の活性化を推進する。	保健体育課
		ウ 児童虐待の防止	児童福祉司1人当たりケース※ 低減させる指標	ケース	55.1	43.0	40.0	-	43.0	B	児童福祉司の計画的な増員（平成30年度から20人増）に取り組んできたが、相談対応件数が大幅に増加したため、目標を達成できなかったもの。今後も、件数の動向を踏まえ、体制強化を図っていく。	子ども子育て支援室
		エ 交通安全の充実	交通事故死傷者数※ 低減させる指標	人	2,472	2,000	1,860	1,770	1,849	A	令和4年の交通事故発生件数は令和3年から減少しているものの、高齢ドライバーによる交通死亡事故の割合が全国でワーストとなったことから、引き続き、運転者、歩行者双方の安全意識を高める「目立つ街頭活動」や、関係機関等と連携した広報啓発活動及び交通安全運動、参加・体験・実践型の交通安全教育等を推進する。	警察、消防安全課

4 若者が活躍できる環境づくり	(3)「非行防止活動」の推進	オ 被害者支援の充実	犯罪被害者等に係る理解促進のための講演会等の参加者数【累計】【再掲】	人	7,534	10,040	14,340	3,000	14,327	B	令和4年度の講演会等の参加者数は令和3年度から減少するなど、犯罪被害者等に対する関心が低下している一方で、犯罪被害者等は二次的被害を始めとしたさまざまな問題に直面していることから、犯罪被害者等を支える社会づくりを推進するため、「いのちの尊さ、大切な教室」の開催について、各種媒体を活用した広報活動を推進する。	警察、消防安全課
			はまなすサポートホームページアクセス数【再掲】※維持する目標	回	-	2,600	2,600	-	2,997	A	性犯罪・性暴力被害者となりやすい若年層を中心に広報啓発活動を行った結果、「はまなすサポート」ホームページアクセス数は目標を達成した。今後も、性犯罪・性暴力被害者への支援を促進するため、リーフレット等の配付やSNSを通じた広報啓発活動を行い、制度の周知を図っていく。	消防安全課
		ア 非行防止活動の充実	少年人口1,000人あたりに占める刑法犯少年の数※低減させる指標	人	1.61	1.58	1.57	-	1.17	A	目標を達成することができたため、新たな目標を掲げて非行防止活動を推進する。	警察、消防安全課
			少年が主たる被害者となる刑法犯認知件数の割合※維持する指標	%	11.3	11.3	11.3	-	12.1	B	概ね目標を達成することができたため、新たな目標を掲げて非行防止活動を推進する。	警察、消防安全課
			喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合	%	73.7	100.0	100.0	100.0	91.6	C	小規模校においては、がん教育に関する事業や他の保健関係事業と隔年で実施している等の理由から、薬物乱用防止教室を開催していない学校もある。今後は、開催の意義、対象学年に応じた学習資料や学習内容の情報提供等により、学校での開催を推進する。	保健体育課
		ウ 薬物乱用防止活動の推進	青少年指導者向け情報メディア対応能力養成講座受講者数【累計】	人	127	460	630	310	627	B	感染症対策として動画配信も活用して実施した。今後もオンラインを併用するなど参加ニーズへの対応や感染防止対策を講じながら取り組む。	若者女性協働推進室
			ルールを守って情報機器（スマートフォン等）を利用することが大切だと思う児童生徒の割合	%							全ての児童生徒がルールを理解し守ることが大切であるという認識を持たせるまで至らなかったが、今後も情報モラル教育を進め、児童生徒の情報モラルの啓発を図る。	学校教育室
			(小学生)		89	97	100	-	87	D		
			(中学生)		85	96	100	-	86	D		
			(高校生)		83	96	100	-	86	D		
	(4)子供・若者を取り巻く有害環境等への対応	イ インターネット・スマートフォン等への対応	青少年指導者向け情報メディア対応能力養成講座受講者数【累計】	人	127	460	630	310	627	B	感染症対策として動画配信も活用して実施した。今後もオンラインを併用するなど参加ニーズへの対応や感染防止対策を講じながら取り組む。	若者女性協働推進室
		イ インターネット・スマートフォン等への対応	ルールを守って情報機器（スマートフォン等）を利用することが大切だと思う児童生徒の割合	%							全ての児童生徒がルールを理解し守ることが大切であるという認識を持たせるまで至らなかったが、今後も情報モラル教育を進め、児童生徒の情報モラルの啓発を図る。	学校教育室
			(小学生)		89	97	100	-	87	D		
			(中学生)		85	96	100	-	86	D		
			(高校生)		83	96	100	-	86	D		
	(1)若者が活躍できる環境づくり	ア 若者間の交流とネットワークづくりの促進	いわて若者交流ポータルサイト登録団体数	団体	63	101	107	-	103	B	補助事業の新規採択団体等の登録を促したが、目標に及ばなかった。今後は団体に加え、個人の登録についても検討する。	若者女性協働推進室
		イ 若者の情報発信などによる活動参画の促進	いわて若者交流ポータルサイトアクセス数	回	36,292	56,500	56,500	69,000	74,726	A	年度の目標値は達成しており、引き続き若者が求める情報の掲載と頻度の高い更新に努める。	若者女性協働推進室
		(2)若者の活躍を支援する仕組の充実	ア 若者自らが実施する復興や地域づくり等の取組の支援	人	881	1,500	2,100	-	3,599	A	オンライン参加者の多数により目標を達成した。今後もオンラインを併用しながら、若者のいわての未来づくりへの参画意識の醸成や若者同士の交流を促進するとともに若者が活躍しやすい社会への変革を目指して関係する関係者等と連携を図る。	若者女性協働推進室
			イ わてネクストジェネレーションフォーラム（トークセッション）の参加者数（オンラインを含む）【累計】	人	12,703	13,900	19,400	-	22,327	A	オンライン参加者の多数により目標を達成した。今後も、オンラインを併用しながら開催するとともに、引き続き若者関連文化イベントの支援に取り組む。	若者女性協働推進室
		イ 高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの支援	高大連携講座への参加者数【累計】	人	912	900	900	-	844	B	コロナ禍でオンライン開催としたため、送受信設備等の制限により目標に及ばなかったが、R5は実地開催が予定されており、主催者等関係機関と受講定員小拡充について検討を進める。	学事振興課

いわて青少年育成プラン(2020～2024) 参考指標

重点目標	中項目	小項目	指標名	単位	青少年プラン基準値(2018)	実績2022(R4)	担当課
1 個性や主体性を発揮して自立した活動ができる環境づくり	(3) 若者の職業的自立、就労等支援	ア 職業能力・意欲の習得	(建設業における)若者、女性の活躍推進、経営力強化を目的とする講習会の受講者数【累計】	人	963	1,147	建設技術振興課
		イ 就労等支援の充実	「いわてアグリフロンティアスクール」の修了生数【累計】	人	425	508	農業振興課
			「いわて林業アカデミー」の修了生数【累計】	人	33	96	森林整備課
			「いわて水産アカデミー」の修了生数【累計】	人	-	29	水産振興課
			ICTセミナー受講者数【累計】	人	431	1,268	科学・情報政策室
			離職者を対象とした職業訓練の受講者の就職率	%	77.1	73.4	定住推進・雇用労働室
			障がい者委託訓練の修了者の就職率	%	86.7	33.3	定住推進・雇用労働室
	(4) 社会参画の機会の拡大	イ 青少年の声を反映する機会の拡大	いわて希望塾参加者数【累計】	人	129	226	若者女性協働推進室
			「わたしの主張」大会発表者数【累計】	人	177	713	若者女性協働推進室
		エ 消費者教育等の充実	消費者教育関連セミナー受講者数【累計】	人	10,955	8,015	県民くらしの安全課
	(5) 困難を抱える青少年とその家族への支援	ア ニートやひきこもりなど困難を抱える子ども・若者への対応	ニート等の自立に関する相談件数【累計】	件	4,212	4,969	若者女性協働推進室
			自殺者数(10万人当たり)	人	20.5	21.3	障がい保健福祉課
		イ 学校不適応への対応	不登校児童生徒数	人	1,595	2,588	学校教育室
			いじめの校種別認知件数	件	7,694	8,256	学校教育室
2 愛着が持てる地域づくり	(1) 地域ぐるみの子育て支援	イ 親育ちの支援	いわて親子家庭フォーラム参加者数【累計】	人	5,790	21,712	若者女性協働推進室
			家庭の教育力が低下していると思う保護者の割合	%	61.0	49.8	若者女性協働推進室
	(2) 「ふるさと」を知り、「地域」を体験する活動の支援	ア まつりや行事、地域活動への参加促進	町内会などの地域活動に参加したことのある青年の割合	%	20.5	21.4	若者女性協働推進室
		ウ 豊かな体験学習の充実	景観学習実施回数	回	14	18	都市計画課
	(3) 「世代間・地域間」等の多様な交流の促進	イ 交流体験活動の充実	いわて希望塾参加者数【累計】【再掲】	人	129	226	若者女性協働推進室
			グローバルキャリアフェアの参加者数【累計】	人	74	124	国際室
	(4) ワーク・ライフ・バランスの推進	ア ワークライフバランスの推進	総実労働時間(年間)	時間	1,840.8	1,748.4	定住推進・雇用労働室
			年次有給休暇の取得率	%	-	58.6	定住推進・雇用労働室
			共働き世帯の男性の家事時間割合(週平均)	%	40.7	39.7	若者女性協働推進室
	(5) 「青少年団体活動」の支援	ア リーダー・指導者育成	いわて希望塾参加者数【累計】【再掲】	人	129	226	若者女性協働推進室
3 青少年を事件・事故から守る環境づくり	(3) 非行防止活動の推進	ア 非行防止活動の推進	少年(20歳未満)の再犯者率	%	33	14.9	警察、消防安全課
4 若者が活躍できる環境づくり	(2) 若者の活躍を支援する仕組の充実	ウ 若者の起業支援	商工指導団体による創業指導回数【累計】	回	-	594	経営支援課
			いわて起業家育成資金の貸付件数【累計】	件	-	107	経営支援課

# 青少年健全育成関連事業 令和5年度実施状況

(若者女性協働推進室 所管分)

## 1 個性や主体性を発揮して自立した活動ができる「環境づくり」

取組項目	実 績 (見込み)
(1) 「いわて希望塾」の開催	<p>【目 的】積極的に岩手の地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材の育成</p> <p>【開催日】11月3日(土)</p> <p>【会 場】岩手県立野外活動センター</p> <p>【参加者】(塾生) 県内(中部、県南、沿岸南部教育事務所管内)の中学生 55 名 (研修支援者) 青年サポーター10 名</p> <p>【内 容】</p> <p>① 地元講師による講話(御所野縄文博物館 館長 高田和徳 氏 )</p> <p>② 塾長メッセージ(知事講話)、塾長(知事)との対話</p> <p>③ グループディスカッション 等</p>
(2) 「わたしの主張岩手県大会」の開催	<p>【開催日等】9月13日(水) 盛岡劇場</p> <p>【参 加 者】発表者：中学生 17 名(県内 16 の地区大会の代表者) 参集者：審査員 7 名、運営 28 名、来賓・引率、聴衆(中学生)・一般・報道 208 名</p> <p>【結 果】最優秀賞 「心に平和のとりでを」 北上市立南中学校 2年 千田 ソフィア さん</p>
(3) 「青少年なやみ相談室」の開設	<p>【相談時間】9:00～16:00(月・木は9:00～20:00)</p> <p>【概 要】青少年活動交流センターにおいて、青少年や保護者からの様々な悩みや青少年活動に関する相談に対応(電話、面談、メール)</p> <p>【相談件数】621 件〔4月～11月〕</p>
(4) 困難を抱える青少年(ニート等)への支援	<p>【事 業 名】いわて若者ステップアップ支援事業(業務委託)</p> <p>【概 要】厚生労働省の「地域若者サポートステーション事業」と連携し、セミナー開催やアウトリーチ(訪問型支援)、ジョブトレーニング(就労体験)など、社会的な自立に向けた支援を実施。</p> <p>【実施状況】セミナー等参加者:延べ 361 人、アウトリーチ:13 件、相談件数 3,205 件〔4月～11月〕</p>

## 2 愛着を持てる「地域づくり」

取組項目	実 績 (見込み)
(1) 「いわて家庭の日」運動の実施	毎月第3日曜日を「いわて家庭の日」とし、啓発チラシの配布や絵画ポスターコンクール等による普及啓発を実施
(2) 「いわて親子フェスティバル」の開催	<p>【会場】いわて県民情報交流センター「アイーナ」</p> <p>10月2日(土)一般県民等 8,631 名(青少年ボランティア・協力者 137 名)</p> <p>【内容】「くぼたまさと工作ショウ・工作教室」「段ボール迷路」「遊びリンピック」等、29 の体験コーナーを実施</p>
(3) 青少年(育成)団体の活動支援	青少年活動交流センターを拠点として、青少年(育成)活動のための情報や活動場所を提供



### 3 青少年を事件・事故から守る「環境づくり」

取組項目	内 容
(1)「青少年を非行・被害から守る県民大会」の開催	<p>【目 的】「青少年の非行・被害防止県民運動（7～8月）」の主要行事として、青少年への理解を更に深め、非行・被害防止活動を推進すること</p> <p>【開催日等】7月12日(水)、いわて県民情報交流センター7階 小田島組☆ほ～る</p> <p>【参加状況】会場参加 230 名（ほか資料送付 367 人、動画視聴数 106 人）</p> <p>【内 容】</p> <p>(1)意見発表 令和4年度（第24回）わたしの主張岩手県大会 最優秀賞受賞者 田野畑村立田野畑中学校3年 三上 結楽さん</p> <p>(2)作文発表 第72回“社会を明るくする運動”作文コンテスト中央推進委員会 法務大臣賞受賞者 岩手大学教育学部附属中学校1年 折居 潤希さん</p> <p>(3)講演「夢中になれるものに出会えたから」 岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課 永井 秀昭 氏</p> <p>【そ の 他】(公社)岩手県青少年育成県民会議との共催</p>
(2) 青少年環境浄化対策の実施	<p>【青少年環境浄化審議会の開催】</p> <p>① 役 割 不健全図書類の審議・指定等（隔月開催）</p> <p>② 委員数 7名（青少年育成、女性団体、PTA、学術、教育、報道、業界団体の各分野から選出）</p> <p>③ 指定状況 図書 15 冊（R5.12月時点）</p> <p>【立入調査】</p> <p>① 教育事務所・振興局等に配置した立入調査員による自動販売機設置場所（30箇所 81 台・12月末現在）及びその他販売場所の調査</p> <p>② 立入調査結果に基づく図書販売業者等への指導</p>
(3) 青少年育成委員の配置	<p>【役 割】県内各地域における不健全環境等青少年問題の実態把握等</p> <p>【配置状況】148 名（中学校及び義務教育学校区ごとに1名ずつ配置）</p>
(4) 少年（補導）センターとの連携	<p>県内 15 市町に設置されている少年（補導）センターとの連携として、各センターの活動状況の集約、少年センター会議を通じた情報共有等を実施</p>
(5)「メディア対応能力養成講座」の開催	<p>【目 的】青少年の保護者や地域の育成指導者を対象として、青少年のインターネット利用環境や危険性、ネット依存への理解を深め、育成環境浄化を図る。</p> <p>【開催状況】</p> <p>① 県南広域・・・11月29日(水) 平泉町エピカ</p> <p>② 県北広域・・・12月1日(金) 道の駅いわて北三陸</p> <p>③ 沿岸広域・・・12月6日(水) 釜石情報交流センター</p> <p>④ 県央広域・・・12月14日(木) 紫波町オガール</p> <p>【開催状況】 参加者 68 名・資料送付 174 名</p>

#### 4 若者が活躍できる「環境づくり」

取組項目	実 績（見込み）
(1) いわて若者カフェの設置	<p>【概要】県内外から講師を招き、参加者との意見交換等を行う「カフェミーティング」などのイベントの開催や、インターネットによる情報発信など、岩手の若者の交流・情報発信の拠点として、県公会堂地下に「いわて若者カフェ」を設置。</p> <p>【開催状況】</p> <p>① 連携交流ミーティングの開催 年6回程度 (6/25 紫波町、9/10 久慈市、10/15 宮古市、12/10 二戸市で開催済)</p> <p>② いわて若者交流ポータルサイト（コネクサス）による情報発信 随時</p>
(2) いわてネクストジェネレーションフォーラム 2023 の開催	<p>【概要】地域活動や文化芸術活動など、様々な分野で活躍している若者の参画及び発表の場とするとともに、この取組を広く情報発信することにより、若者の活躍を後押しするもの。</p> <p>【開催状況】</p> <p>① 日 時 11月19日（日）</p> <p>② 実施形態 デジタルと対面の併用によるハイブリッド型</p> <p>③ 参加者 1,308人回（R5.11.19～12.31、オンライン視聴者含む）</p> <p>④ 内 容 講演、パネルディスカッション、若者からの提言、ブース出展、動画配信</p>
(3) 若者の活動に対する資金面での支援	<p>【概要】地域課題の解決や元気創出に資する独創的、先進的な事業を実施する若者グループや、若者同士の交流と文化芸術の新たな魅力発信に係る事業に対して補助金を交付。</p> <p>【実施事業】</p> <p>① いわて若者アイデア実現補助（上限30万円×8件）</p> <p>② 若者文化振興事業費補助（上限100万円×2件）</p>

## 1 現状

- 東日本大震災津波を契機に、全国の若者が沿岸地域等に移住し、各地域の活動を盛り上げている。
- いわて若者カフェの取組は盛岡中心で、県北沿岸での取組が不十分。近年はオンラインの併用により、盛岡近郊以外からの参加者が増加傾向であるが、県内全域の若者が実際に交流できる取組みも必要。
- 県の青少年の健全育成に関する意識調査（R3）によると、「気軽に立ち寄れる施設や場所が必要」と回答した青年は6割を超えている。また、5割以上の青年が、若者が企画するプロジェクトへの参加に関心を示しているものの、自分で企画運営して行事やボランティア活動を行いたいと考える青年は15%前後にとどまっている。

## 2 課題

- 若者の身近な地域に交流や相談がしやすい場所や体制が必要。
- 多様な分野で若者が活躍できるよう若者同士が交流できる場の創出とネットワーク形成促進等の取組が必要。
- 民間業界ではZ世代のマーケティングが盛んに行われ、逆に大人の側、社会の側も変わっていく必要があるとの意見もある。

## 若者活躍支援の必要性

☞ 人口減少社会を迎え、斬新なアイデアや溢れるエネルギーなどのポテンシャルを有する若者が、地域に目を向けながら、まちづくりや地域課題の解決等に向けて中心的に携わっていくことが期待される。

☞ そのような若者による主体的な活動が活発化することで、持続的な地域づくりのみならず、地元定着やU・I・ターン促進、地域の担い手の確保、人材育成などの効果も期待される。



💡 多様な分野で活動している若者のネットワークを形成し、つながった仲間との交流を通じて、若者の主体的な活動が実現されるようサポートを行っていくとともに、若者の活動が受け入れられる環境づくりを推進する。（若者活躍支援）

## 3 対応の方向性

- 若者間の交流とネットワークづくりの促進
- 大人世代への啓発
- 情報発信の強化
- 若者団体自らが実施する地域課題解決等の取組の支援（人的支援・金銭的支援）

## 4 令和5年度の具体的な取組

### ☆いわて若者カフェの運営

- 【運営方法】委託（イベント企画・実施、活動交流スペースの運営）  
 【利用対象】いわて若者ポータルサイト（コネクサス）の登録団体・個人  
 【開館時間】木・金 16:00~20:00（開館時間変更）  
 土・日 9:30~17:30

#### 【機能】

- ①若者同士の交流と情報交換の場
- ②若者団体の情報発信（ミニスタジオ）
- ③若者の活動を支援する人材の配置（カフェマスター、サポートスタッフ）

#### 【イベント等】

- ①連携交流ミーティング（年6回）②若者活躍情報誌の発行
- ※連携拠点（久慈市、宮古市、陸前高田市、一関市）の開設



### ☆いわてネクストジェネレーションフォーラムの開催

- 【趣旨】若者の発表や交流等により、いわての未来づくりへの参画意識を高めるもの。  
 【期日】令和5年11月19日（日）  
 【場所】いわて県民情報交流センター（アイーナ）  
 【開催形態】ハイブリッド型（対面とオンライン配信の併用）  
 【内容】いわてネクストジェネレーションフォーラム2023  
 ①講演（講師：電通若者研究部 吉田将英 氏）  
 ②知事と講師・パネリストとのパネルディスカッション  
 ③会場でのブース出展及びHP上での若者の活動動画掲載  
 ※「ネクジェネいわて2023」当日の講演や活動紹介動画はこちらを御覧ください。



### ☆若者の活動に対する資金面での支援

- 【概要】地域づくりや復興等に関し、若者が活躍できるよう、若者の主体的な活動の機会を創出し、独創的、先進的な事業を実施する若者グループに対して補助金を交付

#### 【採択事業】

- (1) いわて若者アイデア実現補助（募集：上限額 30 万円×8 件）
  - ①被災地のまちづくりなど、本格的な復興につながる事業（震災復興分野）
  - ②地域課題の解決や地域の活性化に資する事業（地域づくり一般分野）
- (2) 若者文化振興事業費補助（募集：上限額 100 万円×2 件）  
 文化芸術活動に取り組む若者の発表や相互交流の場となる文化芸術イベント等を開催する事業

### ☆若者交流ポータルサイト（コネクサス）の運営

- 【概要】いわての若者情報や行政からのお知らせを集約  
 若者団体の発信拠点・交流の場として岩手県が運営する公式サイト
- 【運用状況】
- ①団体登録者数 R5.12 月末日現在：104 団体（R5 新規登録団体：11 団体）
  - ②「特集記事」の連載による若者の活動等の紹介（年間6名）
  - ③SNSを使用した情報発信  
 X、Facebook、Instagram による情報発信の実施（随時）
  - ④若者団体、行政からのお知らせ（随時）

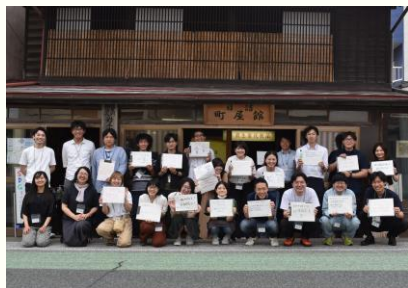




# 令和 5 年度の若者活躍支援の取組紹介

## いわて若者カフェ事業

### 【連携交流ミーティング】



#### 第 1 回 SDGsって何だろう

紫波町で、カフェマスターによる講演、及び「2030SDGs」カードゲームの体験会を実施。ゲームを通じて私たちが描く2030年について考えるとともに、グループごとに「私なりのSDGs」について意見交換し、脱炭素社会等への理解を深めた。



#### 第 2 回 アイディアをかきまぜる

久慈市内のフィールドワークの後、カフェマスター及びコミュニティデザイナーによる講演、地域おこし協力隊等として県北地域で活動する若者 4 名の活動紹介を聴き、各人の今後の活動をより面白くするためのアイデア交換会を行った。



#### 第 4 回 にのへシャドーズの企み会議

二戸市の企業見学やカフェマスター及びゲストの講演により、食産業や様々な取組みなどを体感し、地域で働くこと・地域で暮らすことのイメージを持ってもらい、地域での+α(挑戦やワクワクづくり)についてグループワークを行った。

## いわて若者アイデア実現補助



#### 団体名：いわて学生ボランティアネットワーク

若者のインターンシップ受入れを希望する岩手県内のNPO・地域団体と若者の交流会を実施。

団体の担当者と交流しながら、自分に合った地域貢献の関わり方、働き方を探ることができるように運営。遠方の団体でインターンシップを行う場合には旅費の補助も行う。



#### 団体名：学生活動推進イベント実行委員会

県立大・岩手大の学生有志による交流イベントの開催。高校時代にコロナ禍で行事中止の影響を色濃く受けた世代のメンバーが来場者とともに「青春をアップデート」する文化祭を企画。ステージ発表、ブース展示、お化け屋敷等を実施。

## 若者文化振興事業費補助



#### 団体名：イワテノオト

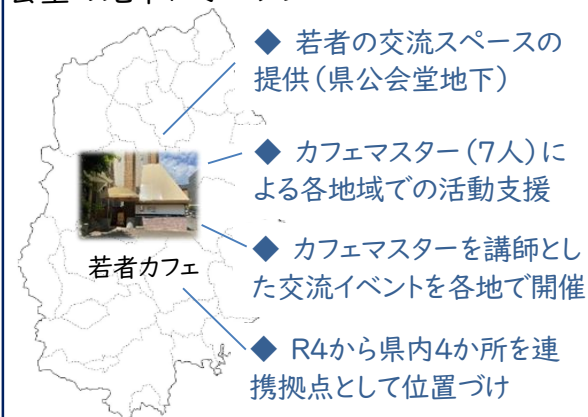
瀧森古都さんの絵本を原作とした新作オペラの上演。岩手県出身の若手音楽家を中心とする団体の企画・作曲・出演によるもので、合唱団は一般公募し、市民参加型の新しいオペラの形を岩手から作っていきこうとするもの。

# 「いわて若者カフェ」の運営について

## 現状と課題

### 現 状

平成29年7月に「いわて若者カフェ」を県公会堂の地下にオープン



【若者カフェ来館者数】

R2年度	R3年度	R4年度
939	1,295	812

### 課 題

- ◆ 盛岡を中心とした運営のため、地域のニーズに十分に答えていない
- ◆ 点での活動が中心で、面的な活動支援になっておらず、カフェマスター間の連携が不十分
- ◆ 連携拠点は運営費を持たないため、活動が形骸化
- ◆ 補助金による支援と、カフェマスターによるサポートが連動していない
- ◆ 市町村や、NPO法人や地域おこし協力隊等との実践的連携が希薄
- ◆ 成果の検証・把握が不十分

## 今後の基本方針

市町村や各地域のNPO団体や地域おこし協力隊等との連携により、若者カフェの活動を全県に拡げ、継続性と社会的貢献の向上に資する仕組みを構築する。

### R 6 年度からの見直し内容

#### ポイント①

##### 連携拠点の機能強化

- ・ 県北・県南・沿岸の4か所に連携拠点となるカフェマスターを配置
- ・ 地域ニーズに応じたイベント等を拠点毎に企画し開催
- ・ カフェマスターが各地の若者からの相談に対応し、助言等によるサポートを実施



#### ポイント③

##### 若者伴走支援の強化

- ・ 若者アイデア補助金を活用する若者団体の活動をカフェマスターが伴走支援し、将来的な活動の自立化等をサポート

【事例①】岩大クラフトビール部による完全県産ビール開発プロジェクト



#### ポイント②

##### 関係団体等との連携強化

- ・ 各地域で活動するNPO団体や地域おこし協力隊等と連携した活動を拡充
- ・ 「盛岡という星で」等の各市町村の取組との連携強化
- ・ カフェマスター間の連携強化

R5は「スタンプラリー」や、ネクジェネへの盛星からの出展等で連携

#### ポイント④

##### 成果の共有・見える化

- ・ 連携拠点や市町村を通じて、各地域の若者の活動状況等を把握し、成果等を見える化し、活動をステップアップ

【事例②】カフェマスターの支援で、クラウドファンディングにより空き店舗にカフェをオープン



若者と大人世代がシビックプライドを高め合う共助型地域づくりを全県で展開